

令和4年2月14日

令和4年

第2回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

令和4年2月14日（月曜日）午後2時から

1 出席委員（6名）

小 黒 仁 史		教育長
三 留 利 夫	委 員	教育長職務代理者
弘 瀬 知江子	委 員	
高 橋 幸 子	委 員	
深 澤 佳 己	委 員	
北 内 英 章	委 員	

2 出席職員（6名）

教育総務部長		市 野 由香里
参事（教育施設担当）		森 岡 剛
教育総務課長		政 木 純 也
学務課長		柳 沢 憲 一
指導企画担当課長		早 川 隆 之
大田図書館長		長 岡 誠

3 日程

日程第1 教育長の報告事項

日程第2 部課長の報告事項

~~~~~

(午後 2 時 00 分開会)

○教育長

それでは、ただいまから、令和 4 年第 2 回大田区教育委員会定例会を開会いたします。  
なお、本日は、傍聴希望者がおります。  
委員の皆様は傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

傍聴を許可いたします。

(傍聴者入室)

○教育長

大田区教育委員会傍聴規則第 7 条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または、拍手その他の方法により、公然と可否を表明することは、禁止されております。ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、これより審議に入ります。本日の出席委員数は、定足数を満たしていますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に弘瀬委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。  
続いて、本日の日程第 1 について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第 1 は、教育長の報告事項でございます。

○教育長

それでは、私から、研究発表会並びに周年行事について、ご報告いたします。

まず、研究発表会でございますけれども、1 月 25 日に出雲小学校の研究発表会がございました。研究テーマは、「未来を創る力の育成～未来ものづくり教育を通して～」という研究主題でございます。

大田区教育委員会では、今、(仮称)未来ものづくり科の新設に向けて、研究校で取り組んでおりますが、その研究の一端を発表していただきました。

本校の研究は、ものづくり教育ということですが、様々な企業、団体に協力いただきまして、その連携のもとに魅力ある学習が展開されていたのだと思っています。

また、タブレット端末を利用したプログラミング教育についても取り組んできました。ものづくりは、試行錯誤しながら、いろいろな課題を解決してものをつくり出していくところに子どもたちの興味があるかと思えます。例えば、お煎餅の会社と連携して、そのお菓子を作ると、その会社からアドバイスをいただきます。そういう課題解決、または、子どもたちの夢に向けての取組がなされて、大変魅力的だったと思えます。子どもたちが本当に楽しそうに取り組んでいるので、教科としての魅力も十分にあると思えました。

その次に、1月31日に、清水窪小学校の研究発表会に行ってみりました。清水窪小学校は、文部科学省の教育課程の特例校ということで取り組んでいます。

大田区では、サイエンスコミュニケーション科という新たな教科を創設して、ものづくりの教育も含めて、理科・科学が大好きな子どもを育てるという取組をしております。

サイエンスコミュニケーション科というのは、どういう意味なのかなと思いましたが、やはり科学の力で世界中の課題を解決していくためにコミュニケーションを深めながら、様々な知識を活用して取り組んでいくという教科の良さが出ていたかなと思います。

サイエンスコミュニケーション科の特徴の一つは、東京工業大学との連携です。コロナ禍のため、東京工業大学へ訪問はできませんでしたが、東京工業大学の先生や学生たちが来て、引き続きいろいろと教えてくれたようです。

清水窪小学校では学びの10のプロセスを作っています。問題解決の学習の流れとして、自然の事象に働きかけ、そこから問題を設定して、予想して、検証の計画を立てる。

それから、結果の見通しを持って観察実験を行い、その結果の整理、考察をする。結論というのを持ち出して、最後に振り返るといった一つの学びの過程を丁寧に作り出しているということです。このサイエンスコミュニケーション科も、やはり大田区の一つの特色として、大事にしていきたい教育だと思いました。

それから、3校目は、2月1日に石川台中学校の研究発表会に行ってみりました。石川台中学校は読解力の向上ということで研究に取り組んでいます。読解力の研究は、いわゆるPISA型の読解力です。特に、その判断や理由の根拠を自分の考えでしっかり述べることとか、情報を取り出して読み取るという読解だけではなくて、それに対して理解し、評価して、それに対して実行する。そういうようなPISA型の読解力についての研究でした。

それで、全ての教科で読解力に取り組んでいることが特徴的でございますけれども、読解力に焦点を当てたところ、子どもたちの能力を高めていこうという授業に変わってきて、先生たちの指導力が向上したということでした。

この石川台中学校は、大村はま先生という国語教育の中では、非常に有名な実践家が20年間近くおり、国語教育を開いてきた所なのですけれども、そこで、新たな読解力について研究を深めていくということは、大変ありがたく思います。また、国語教育という意味では、本校は、非常に歴史がありますので、それを発展させていただければと思いました。

2点目は、南六郷中学校と大森東小学校の周年行事に行ってみりました。南六郷中学校は、開校60周年ということで、1月29日に式典がございました。南六郷中学校は、校章にぶどうがデザインされていて、六郷は、非常に梨やぶどうという果樹園が広がっていた歴史がございます。ぶどうの1粒1粒のように力を合わせて、一つの房をつくるような開校の思いがあるそうです。

今、南六郷中学校は、一人1台のICT教育のタブレット端末を活用した学習の研究推進校になって、非常に先進的な取組を行っています。そういう意味では、かつての大田区の伝統とそれから、新たな教育ということで、非常に期待が持てると思います。

コロナ禍のため、来賓の方は、非常に少なく、代表生徒以外の生徒はオンラインで参加していましたが、感染症に気を付けながら、地域のその特色を大事にした良い式典だと思いました。

最後に、大田区の中でも非常に新しくできた学校の一つなのですけれども、大森東小学校の40周年の式典へ行ってまいりました。「響き合う教育」を合言葉にしており、子どもたちの人数は少ないのですけれども、子どもたちと学校、それから、地域の方が、心を寄せ合いながらやってきたなと思いました。

式典の中でも、校長先生がいろいろ工夫されて、謎かけをしたり、クイズを出したりと、とてもアットホームな空気を感じて、こういう式典もあるのだなと思ったところです。大森海苔のふるさと館での体験であるとか、大森は水田があります。学校の水田を作って、そこでお米を作ったり、特色のある教育がされていて、地域に根差した教育がされているかなと思っていました。

ここも、来賓の方は少なかったのですけれども、お祝いをしてきました。

以上、研究発表会と周年行事について報告させていただきました。何かご質問・ご意見がございましたら、お願いいたします。

### ○三留委員

私も1月末から2月初旬にかけて、周年式典に2回、研究発表会に2回参加してまいりました。

教育長からもお話がありましたけれども、この時期、周年行事や研究発表をした学校は、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら開催したということで、苦労が多かったと思いますが、私が参加した4校については、どれも充実した取組が見られました。

周年行事は、1月29日の南六郷中学校60周年と、2月5日の大森東小学校40周年の式典に参加いたしました。

人数は絞られていましたが、代表の子どもたちが真剣な態度で臨んでおり、どちらもいい式典だったと思っています。

私は、2つの式典で、子どもの感性や思いの溢れたお祝いの言葉、作文が印象に残りましたので、紹介いたします。

南六郷中学校は、代表の生徒が、新型コロナウイルス感染症の流行により、学校に行けなかったことを振り返り、協力・団結の大切さ、友達と話すこと、友達と関わり合い、笑い、遊ぶというような当たり前のことが幸せであることなどについて、話していました。

大森東小学校では、その喜びの言葉の中で、児童の作文が披露されました。クラスのみんなや先生が支えてくれることに感謝をする言葉が述べられるなど、学校愛、友達との深いつながりに関わる発表がありました。コロナ禍の中、子どもたちも、人と人との触れ合いだとか、仲間づくりの大切さを感じているということを実感いたしました。

研究発表会は、1月25日の出雲小学校と1月31日の清水窪小学校の発表会に参加いたしました。コロナ禍の中、どちらの学校も教育委員会の関係者等、一部の授業関係者のみの参加となり、オンラインによる公開となりました。この時期では仕方ないことであり、適切な判断だと思いました。

当日、参加する予定だったゲストティーチャーが、オンラインで授業に参加したり、ビデオで撮った授業の様子を研究発表会で公開したりするなど、新しい形での発表会、授業の形も生まれたのではないかなと思います。

どちらも大田区で目指す（仮称）未来ものづくり科、サイエンスコミュニケーション科

という新しい教科の研究ということで、私も興味深く見させてもらいました。

(仮称) 未来ものづくり科については、指導課において、新設の趣旨や目標等が示され、それに沿って出雲小学校も取り組んでいるところでございますけれども、とても先進的な取組をしているという感じがいたしました。

地域の伝統的なものづくり、科学的なものづくり、環境や人に配慮したものづくりやイノベーションの3つの題材から単元を設定して、各授業では、特色ある探究的な取組が見られました。

それから、サイエンスコミュニケーション科は、先ほどの教育長もおっしゃいましたが、けれども、文部科学省教育課程特例校として、清水窪小学校だけが行える教科になります。

研究紀要によると、生活の中にある身近な科学や世の中の問題への疑問をものづくりや追究活動を通して解決する学習でありまして、こちらも、ものづくりと深く関連する教科になると思っております。

清水窪小学校は、以前から、単元、ユニットという考え方を示して、横断的総合的な学びにより、科学を通して子どもの資質を高める取組をしております。

実践を見ても、子どもの興味や関心を大切にして、試行錯誤しながら、追究活動に取り組ませることにより、子どもの見方や考え方を広げているように感じました。

どちらの学校とも、共通する良さとして、授業内容に関わる専門的な研究協力者、授業協力者を招いて授業づくりをしていることがあります。出雲小学校では、六郷工科高校、蒲田保育専門学校、日本工学院など、大田区にある学校の先生や生徒、大田区の工場や工房の関係者、清水窪小学校では、先ほど、お話がありましたけれども、東京工業大学やお茶の水女子大学などの研究者との連携のもと、研究活動や授業づくりに取り組んでいます。

こうしたことが、子どもの科学への関心や深い理解に結び付くとともに、研究の充実にもつながると思っております。

今後、未来ものづくりを進めるにあたって、先進校の取組を参考に、各校の実態に合った授業実践の準備をしていく必要があります。そのために、今から各学校で、(仮称) 未来ものづくり科の年間指導計画をきちんと構想していくことが大切です。単元構成案程度の年間計画ではなく、目標や主な活動・準備等を含めた年間計画を作れるかどうか、各校のものづくり教育を進める上で、私は、大きな鍵になると思っております。

2つの学校の素晴らしいことは、オリジナルの年間指導計画がしっかりできていることです。そこには、カリキュラムユーザーではなく、カリキュラムメーカーとしての姿が見られます。

大田区のどの学校でも、カリキュラムメーカーとしての意識を持って、児童・生徒、地域の実態に合った教育活動を進めてもらいたいと思っております。

#### ○高橋委員

私も、出雲小学校の研究発表会に参加いたしました。未来ものづくり教育ということで、出雲小学校では、外部授業協力者が企業、学校、団体など各方面に渡っており、全クラスで授業をしていたことがとても感動いたしました。プロ視点からのアドバイスに、児童も興味を持って熱心に学べたと思います。また、児童がタブレット端末を自在に使えることに驚きました。

そして、初めの挨拶も英語だったクラスがあり、火曜日に設定されているイングリッシュデイの効果が出ているように思いました。

もう一点、糀谷小学校の展覧会へ行きました。全学年クラスごとに時間を分けていたので、密にならずゆっくり鑑賞することができました。作品名がそれぞれ付けてあり、素晴らしい作品に仕上がっていました。色合いがとても明るい色が多く、心が和む一時でした。

○教育長

ほかにございますでしょうか。

よろしいですか。

それでは、次に、日程第2に移ります。事務局職員の説明を求めます。

○庶務係長

日程第2は、部課長の報告事項でございます。

○教育長

それでは、部課長の報告をお願いいたします。

○大田図書館長

私からは、令和4年度大田区立図書館の特別整理期間について、ご報告をいたします。

次年度の特別整理期間として、表にお示ししたとおりのスケジュール（案）を作成いたしました。大森南図書館において、4月4日からの休館を皮切りに、各館にて順次、ゴールデンウィークや子どもたちの夏休みに配慮しながら、6日間ずつ、特別整理を実施してまいります。

最後の大田図書館は、蔵書数が多いため、9日間とし、全体として11月22日に終了する予定でございます。

今後、工事などの実施による休館期間の変更や追加が生じた場合は、その都度、提案してまいります。

本日、ご決定をいただきましたら、3月から館内掲示やホームページ等で周知を進めてまいります。よろしくをお願いいたします。

○教育長

それでは、ただいまの報告につきまして、ご意見・ご質問はございますでしょうか。

○三留委員

今、図書館長より大田図書館の特別整理期間について説明がございました。各種の整備や改修を行うために休館することはやむを得ないことであり、必要なことでもあります。

特別支援期間である休館日を図書館ごとにずらしているのも、周知をしっかりとすることで、利用者の理解も図れると考えております。

安全・安心はもちろんのこと、利便性の向上、快適な空間をつくることの2点を意識して、整備や改修に取り組んでいただきたいと思います。思っております。

○教育長

ほかに、ご質問はありませんでしょうか。

よろしいですか。

それでは、これをもちまして、令和4年第2回教育委員会定例会を閉会いたします。

(午後2時22分閉会)

令和4年 第2回 教育委員会 定例会 2月14日(月) 午後2:00～

教育委員会室

<教育長の報告事項>

<部課長の報告事項>

教育総務部長

参事(教育施設担当)

教育総務課長

教育施設担当課長

副参事(教育地域力担当)

副参事(施設調整担当)

学務課長

指導課長

指導企画担当課長

学校支援担当課長

副参事(法務担当)

教育センター所長

幼児教育センター所長

大田図書館長

令和4年度大田区立図書館の特別整理期間について

令和4年2月14日

令和4年第2回教育委員会定例会日程

日程第1 教育長の報告事項

日程第2 部課長の報告事項

令和4年2月14日

### 令和4年度大田区立図書館の特別整理期間について

大田区立図書館は令和4年度に、特別整理期間として、下記の期間を休館とし、一部の館では、この休館期間と日程を合わせて、各種の改修工事等を行う。

利用者には事前に近隣の図書館の利用を周知するなど、できるだけご不便をおかけすることのないよう、運営に努める。

#### 記

#### 1 休館図書館と休館期間(日程順)

| 館名   | 休館(特別整理期間)          | 備考            |
|------|---------------------|---------------|
| 大森南  | 4月4日(月)～4月9日(土)     |               |
| 下丸子  | 4月11日(月)～4月16日(土)   |               |
| 文化の森 | 5月16日(月)～5月21日(土)   | ※ 参考          |
| 入新井  | 5月23日(月)～5月28日(土)   |               |
| 蒲田駅前 | 5月30日(月)～6月4日(土)    |               |
| 久が原  | 6月6日(月)～6月11日(土)    |               |
| 大森東  | 6月13日(月)～6月18日(土)   |               |
| 池上   | 6月20日(月)～6月25日(土)   |               |
| 洗足池  | 6月27日(月)～7月2日(土)    |               |
| 浜竹   | 7月4日(月)～7月9日(土)     |               |
| 六郷   | 7月11日(月)～7月16日(土)   |               |
| 羽田   | 9月5日(月)～9月10日(土)    |               |
| 多摩川  | 9月12日(月)～9月17日(土)   |               |
| 大森西  | 9月26日(月)～10月1日(土)   |               |
| 馬込   | 10月3日(月)～10月8日(土)   |               |
| 蒲田   | 10月17日(月)～10月22日(土) |               |
| 大田   | 11月14日(月)～11月22日(火) | 月曜日～翌週火曜日 9日間 |

注) 工事などの実施による休館期間の変更、追加が生じた場合はその都度起案する。

#### 2 周知方法

館内掲示、区報、大田区ホームページ、図書館ホームページ等